

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2026年第9週 2026年2月23日（月）～2026年3月1日（日）2026年3月5日作成

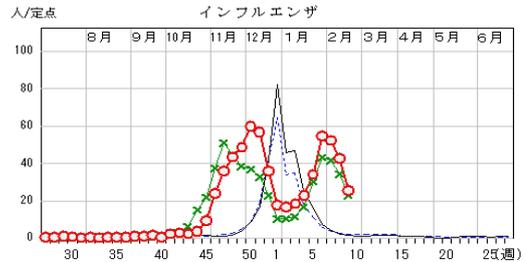
☆定点^{*}報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第9週の報告数は1300人で、前週より884人少なく、定点当たりの報告数は25.49であった。

年齢別では、10歳未満（669人）、10～19歳（408人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（33.73）、対馬保健所（33.67）、佐世保市保健所（32.29）、県央保健所（30.00）であった。

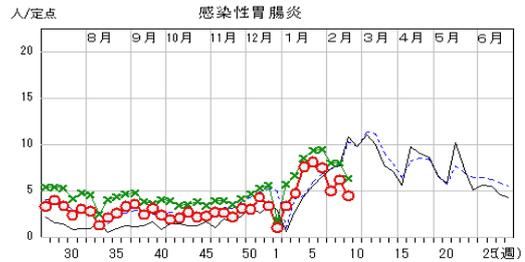


（2）感染性胃腸炎

第9週の報告数は139人で、前週より53人少なく、定点当たりの報告数は4.48であった。

年齢別では、1歳（23人）、10～14歳（20人）、2歳（17人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所（9.67）、県北保健所（8.50）、佐世保市保健所（8.00）であった。

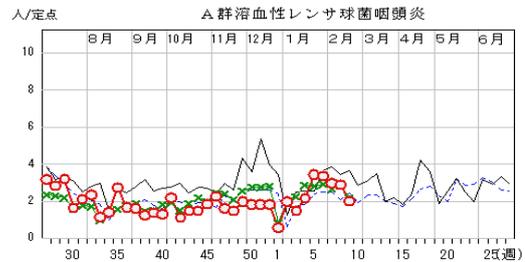


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第9週の報告数は62人で、前週より28人少なく、定点当たりの報告数は2.00であった。

年齢別では、10～14歳（12人）、9歳（9人）、3歳（8人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所（4.33）、県南保健所（3.67）、対馬保健所（3.00）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
× 当年(全国) 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第9週の報告数は1300人で、定点当たり報告数は25.49となりました。3週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が15週間継続しています。地区別では、10保健所のうち9保健所が警報レベルの報告数となっています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第9週の報告数は139人で、定点当たりの報告数は4.48でした。地区別にみると、西彼地区(9.67)、県北地区(8.50)、佐世保地区(8.00)は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第9週の報告数は62人で、定点当たりの報告数は2.00でした。地区別では、西彼地区(4.33)が警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱(高熱)、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：海外渡航の際は、感染症に注意しましょう

春休みを利用して海外に出かける方の増加が予想されます。海外では、日本に常在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報を入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

●厚生労働省ホームページ「海外へ渡航される皆様へ」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003.html

●厚生労働省検疫所ホームページ「FORTH」

<https://www.forth.go.jp/index.html>

☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋(3月から11月)にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

●厚生労働省ホームページ「ダニ媒介感染症」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

●長崎県地域保健推進課「ダニ感染症の予防」

<https://www.pref.nagasaki.jp/object/kenkaranooshirase/oshirase/299534.html>

☆トピックス：インフルエンザが流行しています

2026年第9週（2月23日～3月1日）の患者報告数は1300人で、定点当たり報告数は25.49となりました。3週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が15週間継続しています。地区別にみると、10保健所のうち9保健所で警報レベルの報告数となっています。年代別では、10歳未満（669人、52%）、10代（408人、31%）が多くなっています。今後も手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。

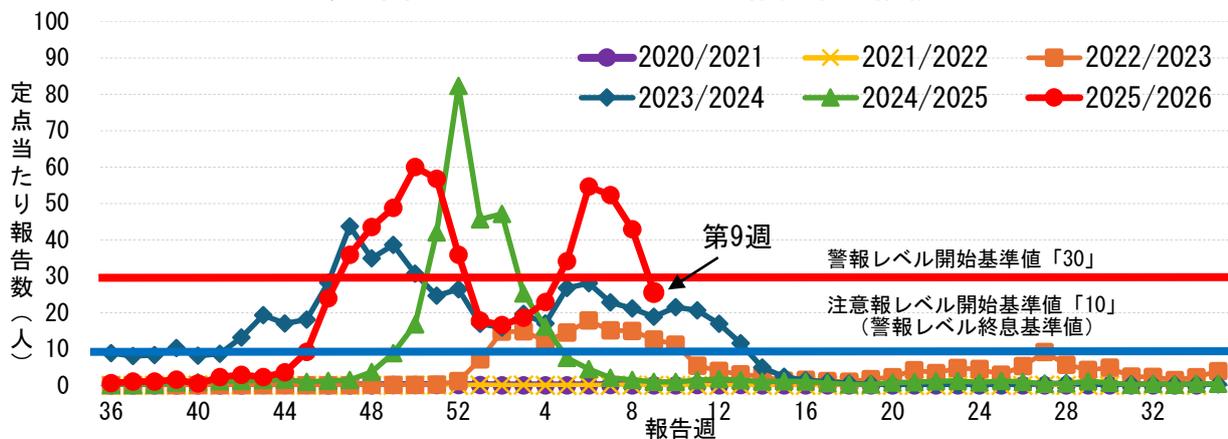
●厚生労働省 「インフルエンザ総合ページ」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleenza/index.html

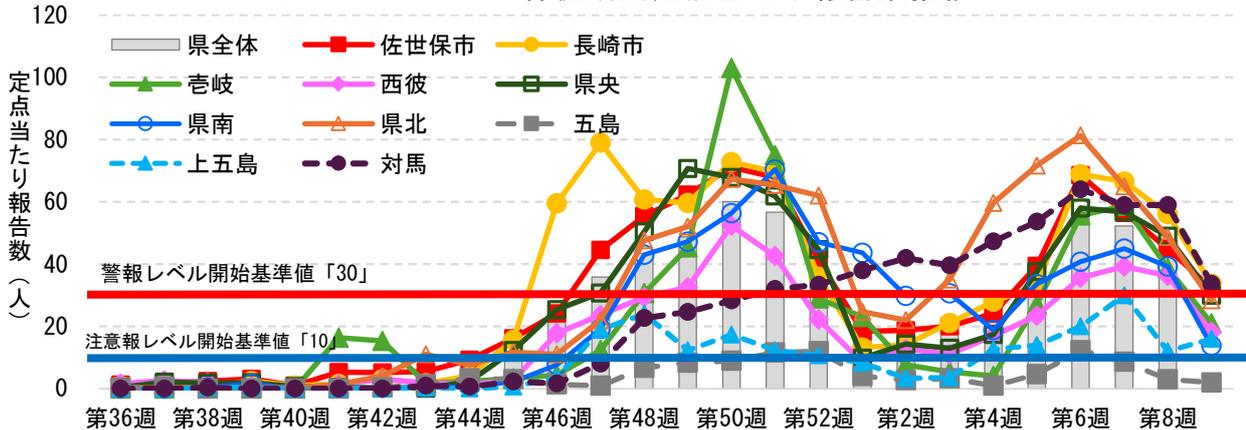
●長崎県地域保健推進課 「2025/2026シーズンのインフルエンザ臨時休業措置等」

<https://www.pref.nagasaki.jp/object/kenkaranooshirase/oshirase/744804.html>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



インフルエンザの保健所別定点当たり報告数推移



☆トピックス：3月1日から3月7日は、「子ども予防接種週間」です

令和8年3月1日（日）から3月7日（土）までの7日間は「子ども予防接種週間」です。公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本小児科医会、厚生労働省及びこども家庭庁の主催により、子どもに対する予防接種への関心を高め、予防接種実施率の向上を図ることを目的として、予防接種に関する取り組みが実施されます。

この時期は、4月からの入園・入学に備え、保護者の予防接種への関心を高めるとともに、接種漏れを見直すのに最適な時期と考えられます。ワクチンで防げる病気（VPD：Vaccine Preventable Diseases）から子どもたちをまもるため、適切な期間内に忘れずに接種しましょう。

●厚生労働省 令和7年度「子ども予防接種週間」の実施について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000193336_00009.html

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（60代・2名、70代・1名）
 無症状病原体保有者 男性（80代以上・1名） 女性（50代・1名、80代以上・2名）
 3類感染症：報告なし
 4類感染症：E型肝炎 患者 女性（50代・1名）
 5類感染症：梅毒 患者 男性（30代・1名）
 侵襲性肺炎球菌感染症 患者 女性（80代以上・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第4～9週、1/19～3/1)

疾患名	定点当たり患者数					
	4週	5週	6週	7週	8週	9週
	1/19～	1/26～	2/2～	2/9～	2/16～	2/23～
インフルエンザ	22.90	34.08	54.59	52.25	42.82	25.49
新型コロナウイルス感染症	0.69	0.53	0.71	0.59	1.35	0.88
RSウイルス感染症	0.45	0.32	0.58	0.29	0.35	0.58
咽頭結膜熱	1.55	1.03	0.81	0.55	0.55	0.29
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.16	3.45	3.35	2.97	2.90	2.00
感染性胃腸炎	7.61	8.10	7.48	4.97	6.19	4.48
水痘	0.32	0.19	0.19	0.42	0.26	0.26
手足口病	0.58	0.10	0.23	0.23	0.10	0.29
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.55	0.55	0.23	0.35	0.19	0.13
突発性発しん	0.29	0.29	0.10	0.19	0.23	0.29
ヘルパンギーナ	0.06		0.03		0.03	0.03
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.03				
急性出血性結膜炎						
流行性角結膜炎	1.38	0.63	1.50	2.75	2.00	1.00
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎	0.08					
マイコプラズマ肺炎	0.58	0.08	0.08	0.67	0.17	0.25
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						0.08
急性呼吸器感染症（ARI）	76.14	92.88	115.24	108.35	96.41	75.63

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第9週、2/23～3/1) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	25.49	32.29	33.73	21.00	18.20	30.00	13.80	28.33	2.00	16.00	33.67
新型コロナウイルス感染症	0.88	0.86	0.27	0.33	0.20	0.13	6.20			0.67	
RSウイルス感染症	0.58	0.75	0.50		2.33	0.80	0.33				
咽頭結膜熱	0.29				0.33	0.80	1.00	0.50			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.00	1.50	1.83	1.00	4.33	2.20	3.67	0.50	0.50		3.00
感染性胃腸炎	4.48	8.00	3.83	3.50	9.67	4.20	1.67	8.50	0.50		2.00
水痘	0.26	0.50	0.17	0.50	0.33	0.40	0.33				
手足口病	0.29		0.17	0.50		1.40					
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.13	0.50						0.50		0.50	
突発性発しん	0.29	0.25	0.50	0.50	0.33	0.20		1.00			
ヘルパンギーナ	0.03			0.50							
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	1.00	2.00			4.00		2.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.25	2.00					1.00				
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08	1.00									
急性呼吸器感染症（ARI）	75.63	91.00	119.64	47.67	83.60	73.88	45.60	47.67	2.67	47.67	76.67